

1年生 数学2 課題

● 登校日までの課題

1. 【改訂版 中学校 数学1】の p. 142～p. 148, p. 159～p. 165 を読む。
2. 【6カ年教育をサポートする 体系数学1 幾何編】の p. 6～p. 17 を読み、太字のことばについて説明できるように自分なりにノートにまとめる。(例えば、p. 6であれば、半直線とは何ですか?と問われたときに説明できるように)
3. 【体系問題集数学1 幾何編 標準】の大問 1～32 をノートに解く。

● 5月6日までの課題 (上記登校日までの課題と別のノートにしてください)

1. 【6カ年教育をサポートする 体系数学1 幾何編】の p. 72～p. 81 を読み、太字のことばについて説明できるように自分なりにノートにまとめる。
2. 【体系問題集数学1 幾何編 標準】の大問 143～165, 167～173 をノートに解く。

※課題のやり方

- 【改訂版 中学校 数学1】と【6カ年教育をサポートする 体系数学1 幾何編】の問題はしなくてよい。【体系問題集数学1 幾何編 標準】を解くなかでの参考にする。【6カ年教育をサポートする 体系数学1 幾何編】の左上にQRコードがあるので、そちらも参考にしてもよい。
- できればB5 ノートに課題を解く。
(登校日までの課題と、5/6までの課題ノートは分けること。ノートが無ければ、ルーズリーフ等を利用して構わないが、提出時にはバラバラにならないように順番通りに綴じること。)
- 【体系問題集数学1 幾何編 標準】の大問 15～31 の図形問題に関して。定規を用いてノートに写す、グラフ用紙や方眼紙を用いてノートに貼る、いずれかの方法でノートに解答する。冊子に直接書き込みはしないこと。
(図が大きくなっても構わない。)
- 考え方が必要な問題は、考え方が分かるように解答する。
- 1つの大問を解き終えたら解答を見て自分で丸付けを行う。間違えた問題は、その大問の下に、もう一度改めて解き直す。(これは“間違えた部分の横に直してはいけません”という意味)
- 間違い直しを全て正解した後、次の大問を解き進めていくこと。

※学校が再開されたら、これらの内容を授業で再確認する。